

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

#### 学校経営中期取組目標

- 子どもの自己肯定感を高めて、自分を大切にし、自分のよさを見つけ、頑張り続けられる子どもを育てます。
- わかる喜び・できる喜びを実感させ、やる気を引き出す授業づくりに努めます。
- 一人ひとりの子の状況を把握し、その子の実態に合った学習をすすめます。
- 人とかかわり方を学び、誰とでも気持ちよく生活できるコミュニケーション力を育てます。
- 学校内にとどまらず、地域の方々・保護者と積極的に関わることで、子どもがまちを愛する心を育てます。

### (2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
	豊かな心	豊かな体験活動と異学年交流を通して、人とかかわり方を学び、一人ひとりが自分のよさに気づいて、自己肯定感を高め、誰とでも気持ち良く生活できる子を育てる。	①「私たちの道徳」等の教材を活用し、教育活動全体を通して、道徳の時間を充実させ、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする。②自然の中での豊かな体験活動や異学年とのふれあい活動、群れ遊びを通して、他者理解や自己認識を深める。③「いじめ追放宣言集会」・「平和スピーチコンテスト」・「人権集会」を開催し、確かな人権感覚・意識を育成する。
担当	道徳教育担当		

## 2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

- ・自己肯定感が、低学年は高かったが、中・高学年になると自己肯定感の低い児童が増える傾向が見られる。
- ・「一生懸命、取り組んでいることがある。」という児童は、9割前後いる。
- ・「人の気持ちを考えて行動する。」「人とかかわることが好き。」という項目に否定的な児童が20%近くいる学年が高学年にある。
- ・「いじめ追放宣言集会」の取り組みを通して、人権意識が向上してきている。

## 3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

### 指針1 「道徳の時間」の充実（必須項目） ※道徳教育全体計画・別業と連動

- ・全学級の道徳授業を家庭、地域に(年に1回以上)公開する。
- ・校内授業研究に年1回「道徳」の授業を取り入れ、授業研究を通して、人権を尊重した道徳授業のあり方について学び、授業改善に努める。
- ・多様な話し合いの形態や板書の工夫、中心発問の精選をして、「考える道徳」「議論する道徳」を目指す。

### 指針2 体験学習の充実

- ・自然の中での豊かな体験活動「ふれあい自然教室」と「愛川体験学習」やふれあい班活動を通して異学年と交流し、人とかかわり方を学び、誰とでも気持ち良く生活できる子どもを育てていく。
- ・年間を通した縦割りのふれあい班活動を充実させ、学級集団だけではない異年齢同士のつながりを築く【視点3】

### 指針3 「確かな人権感覚・意識の育成」

- ・教師の人権感覚、人権意識を向上させ、人権が尊重される教育活動を行うために校内や菅田中ブロックでの研修の充実を図り、一人ひとりの児童を大切にしたいよりよい学年・学級経営を推進し、どの子どもも安心して過ごせる教室を実現する。
- ・「いじめ追放宣言集会」・「平和スピーチコンテスト」・「人権集会」を開催し、確かな人権感覚・意識を育成する。
- ・人権教育全体計画に基づいて教育活動を行う。また、実践事例集、子どもの社会スキル横浜プログラムを積極的に活用する。【視点7】

